

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年3月28日

学校法人のびる学園
幼保連携型認定こども園
のびる幼稚園
園長 山田佳奈子

学校評価委員会 佐藤真吾 小野啓一 申尚英輔
佐藤真樹 内田 歩

1. 本園の教育目標

「自分で遊びを見つけられる子」

遊びは、子どもの生活の全てです。自分で遊びを見つけられる事ができたときに、子どもは初めて自己の確立の第一歩を踏み出したこととなります。一人遊びでも集団遊びでも子どもが見つけた遊びを否定せず、認める事が大切だと考えます。

「他人を思いやる心」「自然を大切にすること」「自分を大切に思う心」は、自分で遊びを見つけられる子になる大切な3つです。そしてのびる幼稚園が大切に思っている「博愛」の大切な表れだと考えます。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

＜今年度 学年目標＞

- 0歳児…一人ひとりの発達に応じた援助のもと、離乳の完了や歩行の完了を促し、身の回りのものへの興味・関心を広げる。
- 1歳児…一日の生活リズムを整えながら、食事・排泄・着脱など、身の回りのことを自分でしようとする
- 2歳児（満3歳児）…象徴機能や想像力を広げながら、集団活動に参加する。
- 3歳児…身近な仲間や自然等の環境と積極的にかかわり、意欲を持って活動する
- 4歳児…信頼感を深め、仲間と共に感情豊かな表現をする
- 5歳児…集団生活の中で自立的・意欲的に活動し、体験を積み重ねる

＜今年度園内研修＞

子どもを中心に、人を育てる～お互いに育ち合う～

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教職員間のコミュニケーションの円滑と環境作り	B	役割分担をしているが、複数で担当している係においては、決まった保育教諭に負担がいつてしまう傾向にある。 また、学年のチーム保育にこだわりすぎてしまう様子も見られた。そのため、園全体の活動において、気づいた先生が仕事を進めていく傾向にあり、一部の先生に負担が募る方向になりつつある。 シフトで動いているため、意見の食い違いにより、仕事がスムーズに展開しないこともあった。 今後、仕事がスムーズに進むよう Chatwork の活用をし、誰でも仕事内容の共有を図る。
2	園内研修に取り組む 「子どもを中心に、人を育てる ～お互いに育ち合う～」	B	非常勤勤務の先生が会議に参加できないこともあり昨年度に続き、行事ごとの内容や役割分担を一覧表にメール・掲示していった。 保護者との連携を考え、園のブログ活用を増やし、

		<p>また、クラス便りで子ども達の遊びの様子を中心に写真を交えてお知らせをしていった。</p> <p>また、お便りの内容をわかりやすくするために、文字だけでなく図面を入れるなど工夫した。</p> <p>植物を育てることで、自分が育てられている意識向上・食べ物を作る大変さを知り、食事の有難みを感じられるよう、今までの野菜作りに加え、田植え作業も行った。田植えでは、子ども達は楽しみにし、田んぼの感触を感じた。つまさきを感じる冷たい水、直後に足の裏で感じる泥、田んぼに踏み入れた足が沈み込むと思わずぐらつく体のバランス―田んぼの中で子どもたちは苗を植える作業だけでなく、体全体を使って普段の生活では経験することの少ない感触や動きを楽しむことができた。また、以前に比べて、田んぼの生き物にも目を向けるようになりました。アメンボ、泥に潜むタニシやヤゴ、おたまじゃくしやカエル等、稲の成長を観察しながら自然に興味を向けるようになった。自分たちで植えた苗に日々お米 1 粒 1 粒の大切さを感じ、食事への意欲にもつながる良い機会となった。</p> <p>外遊びでは、ボール遊びやおにごっこ等に興味を持っている子が多かった為、集団遊びを行う機会を登園後の自由遊び時間から積極的に取り入れていった。継続して集団遊びに取り組む時間を設けた事で集団遊びが子ども達の中で浸透し、学年関係なく遊びに参加し、取り組む姿がみられるようになった。</p> <p>室内遊びでは、遊び班の設定したカフェ屋さんのごっこ遊びに取り組みたいという子が多く、その中で子ども同士のやり取りがよくみられた。お店屋さん、お客さんと役割を分担する中でその役割になりきってごっこ遊びに取り組み、年齢関係なく一緒に遊びに向かっていた。子ども達がお互い関わりながら適切な関わりができるようになったという点だけでなく、職員が子どもと一緒に取り組む事で遊びが盛り上がる・子どもの成長に繋がる、というやりがいを得る事を実感でき、各保育教諭自身が積極的に取り組みたい遊びを企画、展開させる足がかりとなった。</p>
3	安全管理	<p>A</p> <p>不適切保育や置き去りの事故等が世間で取り上げられている。園内・家庭にも目を向け、子ども達の安全管理を徹底・園での安全管理の見直しを行った。全職員での研修に参加することがなかなかできなかったため、行事の午後の時間を利用し、全職員で「見逃さないでたすけてサイン～児童虐待早期発見・防止のために～」の動画を見て子ども達のサインを全職員で気付けるよう再確認した。</p> <p>子どもの在籍チェックを確実に行うよう時間で点呼を行う・出欠の届がない・登園の確認ができていない場合には、保護者への電話確認の徹底を行った。電話が繋がらず困ることもあったが、再度電話する・職場に電話する等あらゆる方法で確認をとるようにした。</p> <p>子ども達の怪我に対して、状況がつかめない場合には、防犯カメラを利用し、原因解明に努めた。職員</p>

			の配置状況等、次の怪我へ繋がらないように意識していく必要がある。子ども達も長時間保育となり、午後の時間になると気持ちの不安定さからトラブルが増える様子も見られる。子ども達の心の拠り所となるよう意識しながら、遊びの環境設定についても今後見直していく必要があると感じる。
--	--	--	---

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<p>今年度は、少しずつ通常の保育のかたちに戻していこうと考えてのスタートとした。年長児の電車を使っての遠足、久しぶりに卒園生も招待してののびる祭り等、以前当たり前のようにやっていた行事も戻していった。どのように進めて行こうか、試行錯誤しながら迎えた行事だったが、職員の心配をよそに、子ども達は1つ1つを楽しみ、その経験したことを吸収しながら大きくなってくれたことと感じている。</p> <p>通常に戻そうとするからこそ、園内消毒や換気に等に注意してきたが、インフルエンザが大流行し11月14日～16日の3日間年長組が学年閉鎖となった。参観日と重なっていたため、参観日も中止することとした。他の行事においては、通常通りに開催できた。降園方法も、室内に保護者へ迎えに行ってもらう方法へと変更し、少しずつではあるが、保護者に子ども達の様子を見てもらう機会を増やしつつある現状にある。</p> <p>子ども達は年々、長時間保育になり、保育教諭に愛情を求め、抱っこやおんぶを求め、一緒にいて欲しいとせがむ子ども達が増えてきている。保護者の方も、仕事等で大変なこともあるかと思うが、子どもが低年齢だからこそ、子どものことを第一に一緒に考えていただけるよう啓蒙していこうと思う。</p> <p>職員会議・園内研修ができるよう、室内清掃のスタッフを週2日いれていただいた。しかしながら、毎日100名近い子ども達が預かり保育・保育部として園に残っていることもあり、なかなか会議を実行できないことが多々あった。来年度に向けて、事前に会議計画を立て、実行していこうと考えている。また、保護者への保育教諭のスキルアップが子ども達への教育へ繋がっていくことを伝え、研修への協力依頼をしていこうと考える。</p>

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教師間の連携	<p><職員間の明るい雰囲気作り> 保育教諭間の資質向上 教師間のコミュニケーションの向上に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いに心地よく感じる挨拶。 一人ひとりが礼儀正しくしていく(社会人としてのマナー) ポジティブな言葉・表情(笑顔)・声のトーンを心掛ける。 ポジティブな言い回しへ変換、前向きな意見 「誰かがやってくれる」ではなく、「私もやりたい」と言える積極性 実践を行う人を尊重し、自分は何ができるか?と協力体制を持つ 一緒に仕事をする事仲間のことを考えて、報連相でスムーズに仕事を進める 自分の問題点や良い点を発見し、保育教諭としての資質向上に図る。 子どもの安全を守るため、職員間の声かけを心掛ける。 お互いを理解し、分かり合える職員間のつながりが必要。(お互いに言い合える環境づくり) 新人育成(より良い育成の方法を考える。)

2	園内研修	<p>園内研修課題「子どもを中心に、人を育てる～お互いに育ち合う～」について、考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長を第一に考える。(笑顔をわすれない) ・保護者と一緒に子育てをしていく姿勢 ・人間関係を円滑にチームで仕事をする。(指示の具体性・積極的な意見) ・子どもの気持ちに寄り添う保育(信じて待つ) ・共に育ち合う保育のスキルアップ ・園の教育目標「自分で遊びを見つけられる子」を考え保育を進める。 ・感情的になりすぎず、冷静に子どもを対処する。 ・命を預かる仕事(責任感を持つ) ・定期的な会議の開催 ・0歳児～6歳児の子どもの成長を知る。 <p>一人一人が”育てる”を意識しコミュニケーションをとり、取り組む園全員の職員で一人一人の子ども達を見守る、のびる幼稚園本来の保育、チーム保育を見直す。</p>
3	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・園児の人数把握 ・遊具点検(保育環境整備) ・保健連絡 ・子どもの人権を尊重(名前の呼び捨て・差別用語・プライドを傷つける・言葉の暴力等には気をつける。また、無意識に使っていないか、職員間で確認しあう。) ・守秘義務 ・子どもの特性を理解する ・子どもへの安全指導 ・保護者への啓発・協力依頼 ・保健衛生の適切な対応 ・遊具使用時の注意点、子ども達への指導内容の共通理解

6.学校関係者評価委員会の評価 全体評価 A

- ① 遊びについて（子ども達の遊び・在り方等について）

子ども達の生き生きとした顔を見ているとほっとします。
先生たちの見守りも立派で感心します。安心感を与えて下さいます。
家へ帰ってからの友達との遊びが充分できるとよいですね。
様々な遊びを園でやらせて頂いていると感じる。個人で好きなことをできる時間、集団で仲間と一緒に遊ぶ時間があり子どもの成長に繋がっていると思う。
先生方が子ども達の遊び方や遊びを増やしてあげたいという気持ちを持って日々の生活を考えられている所が良いと思います。
- ② 子ども達への取り扱い（職員の話し方・保育の進め方・保護者対応等について）

子ども達に、先生たちはよく接していると思います。
保護者対応も、よく話を聞いてくださっていると思います。「よく聞く」が大切だと思います。
保護者同士のメール等での連絡により、方向性が変わってくることはありませんか？しっかり聞いて対応する必要がありますね。
先生同士が仲良く楽しそうに過ごしてくれているとそれが子ども達も気が付きとても良い環境で生活できると思う。なので、先生方にも笑顔でいれる場所であって欲しい。
保護者に対しても、もっと積極的に日々のことを伝えていただけたら嬉しいなと思います。
保育教諭間のコミュニケーションの向上・ポジティブな言葉・表情等、子ども達に直接関わる事なので保育教諭の資質向上にこれからも取り組んで欲しいと思います。
- ③ 行事について（進め方・開催方法等について）

行事で子どもも先生も保護者も育つという観点で進めて欲しい。
行事をやめることは簡単ですが、持続することは大変です。子ども達の力になっているので大切にしたい。
どの行事を見ても成功しています。素晴らしいですね。
コロナあけ出来る行事を増やせるようになってきたので、そのまま色々なことに取り組んで欲しいです。
- ④ その他ご意見がありましたら、お願い致します。

保育・教育に関わる時間が多少減っても、命が一番大切なので人数把握等に力を入れて下さっている
ので安心して子どもをお願いできている。
色々な面でよくやっているといます。